

No. 8. 看護職員・コメディカル職員研修支援事業費補助金交付要綱 新旧対照表

平成27年度	平成26年度
<p><u>平成27年度</u>看護職員・コメディカル職員研修支援事業費補助金交付要綱</p> <p>(趣旨)</p> <p>第1条 この要綱は、看護職員・コメディカル職員研修支援事業費補助金（以下「補助金」という。）の交付に関し必要な事項を定めるものとする。</p> <p>(補助目的及び補助対象事業)</p> <p>第2条 一般社団法人高知医療再生機構（以下「機構」という。）は、看護職員又はコメディカル職員が職種間協働や、チーム医療等を促進させるため、県内の医療機関や看護職員等医療従事者で構成する団体（以下「補助事業者」という。）が、自主的な研修会を企画し開催すること（以下「補助対象事業」という。）に対して予算の範囲内で補助する。</p> <p>2 次のいずれかに該当する場合は、補助対象事業と認めない。</p> <p>(1) 地方公共団体等から同様の補助を受けているとき</p> <p>(2) 補助事業者である医療機関又は団体に所属する者が、研修会出席者の過半数を占めるとき又はその可能性が強いとき</p> <p>(3) 医療関係者以外の者を研修会の主な対象者としているもの、またはその可能性が高いとき</p> <p>(補助対象経費等)</p> <p>第3条 補助対象経費、補助率及び補助限度額は、別表のとおりとする。</p> <p>2 補助額は、補助限度額と別表に定める対象経費の実支出額とを比較して少ない方の額とし、千円未満は切り捨てる。</p>	<p><u>平成26年度</u>看護職員・コメディカル職員研修支援事業費補助金交付要綱</p> <p>(趣旨)</p> <p>第1条 この要綱は、看護職員・コメディカル職員研修支援事業費補助金（以下「補助金」という。）の交付に関し必要な事項を定めるものとする。</p> <p>(補助目的及び補助対象事業)</p> <p>第2条 一般社団法人高知医療再生機構（以下「機構」という。）は、看護職員又はコメディカル職員が職種間協働や、チーム医療等を促進させるため、県内の医療機関や看護職員等医療従事者で構成する団体（以下「補助事業者」という。）が、自主的な研修会を企画し開催すること（以下「補助対象事業」という。）に対して予算の範囲内で補助する。</p> <p>2 次のいずれかに該当する場合は、補助対象事業と認めない。</p> <p>(1) 地方公共団体等から同様の補助を受けているとき</p> <p>(2) 補助事業者である医療機関又は団体に所属する者が、研修会出席者の過半数を占めるとき又はその可能性が強いとき</p> <p>(3) 医療関係者以外の者を研修会の主な対象者としているもの、またはその可能性が高いとき</p> <p>(補助対象経費等)</p> <p>第3条 補助対象経費、補助率及び補助限度額は、別表のとおりとする。</p> <p>2 補助額は、補助限度額と別表に定める対象経費の実支出額とを比較して少ない方の額とし、千円未満は切り捨てる。</p>

平成27年度	平成26年度
<p>(補助金の交付申請)</p> <p>第4条 補助申請をしようとする者は、補助申請書(第1号様式)に係る書類を添えて、機構の理事長(以下「理事長」という。)が別に定める日までに、理事長に提出しなければならない。</p> <p>2 補助対象期間は、<u>平成27年4月1日</u>から<u>平成28年3月31日</u>の範囲内とし、追加公募を行った場合には、申請日から<u>平成28年3月31日</u>の範囲内とする。</p> <p>(補助事業者の決定)</p> <p>第5条 補助事業者の選考は、一般社団法人高知医療再生機構の組織に関する規程(平成22年3月29日機構規則第3号)第5条第2項第1号に定める助成評価委員会が行い、理事長がこれを決定する。</p> <p>2 理事長は、選考結果を補助申請者全員に決定通知書(第2号様式)で通知する。</p> <p>3 上記において、条件付採択の連絡を受けた者が、再申請書類の提出することのできる期限は、当該通知を受けた日から2週間以内とする。</p> <p>(補助の条件)</p> <p>第6条 補助金の交付の目的を達成するため、補助事業者は次に掲げる事項を遵守しなければならない。</p> <p>(1) 法令等の定め、補助金の交付決定の内容及び条件、その他理事長の指示に従い、善良な管理者の注意をもって補助事業を行うこと。</p> <p>(2) 交付を受けた補助金は、補助対象事業に必要な経費にのみ使用しなければならないこと。</p>	<p>(補助金の交付申請)</p> <p>第4条 補助申請をしようとする者は、補助申請書(第1号様式)に係る書類を添えて、機構の理事長(以下「理事長」という。)が別に定める日までに、理事長に提出しなければならない。</p> <p>2 補助対象期間は、<u>平成26年4月1日</u>から<u>平成27年3月31日</u>の範囲内とし、追加公募を行った場合には、申請日から<u>平成27年3月31日</u>の範囲内とする。</p> <p>(補助事業者の決定)</p> <p>第5条 補助事業者の選考は、一般社団法人高知医療再生機構の組織に関する規程(平成22年3月29日機構規則第3号)第5条第2項第1号に定める助成評価委員会が行い、理事長がこれを決定する。</p> <p>2 理事長は、選考結果を補助申請者全員に決定通知書(第2号様式)で通知する。</p> <p>3 上記において、条件付採択の連絡を受けた者が、再申請書類の提出することのできる期限は、当該通知を受けた日から2週間以内とする。</p> <p>(補助の条件)</p> <p>第6条 補助金の交付の目的を達成するため、補助事業者は次に掲げる事項を遵守しなければならない。</p> <p>(1) 法令等の定め、補助金の交付決定の内容及び条件、その他理事長の指示に従い、善良な管理者の注意をもって補助事業を行うこと。</p> <p>(2) 交付を受けた補助金は、補助対象事業に必要な経費にのみ使用しなければならないこと。</p>

平成27年度	平成26年度
<p>(3) 「費目」ごとの支出予定額が50%以上かつ20万円以上変わるなど補助対象事業の大幅な変更又は事業を中止する場合は、事前に補助金(変更・中止)承認申請書(第3号様式)を理事長に提出し、その承認を受けなければならないこと</p> <p>(4) 補助対象事業が予定の期間内に完了しない場合又は事業の遂行が困難となった場合は、速やかに理事長に報告し、その指示を受けなければならないこと。</p> <p>(5) 補助対象事業に係る収入及び支出の状況を明らかにした帳簿書類を作成し、補助対象事業の完了の翌年度から5年間保存しておかねばならないこと。</p> <p>(6) 講演会や事業発表等の場においては、機構の補助事業を活用した旨の表示(発表)を積極的に行うこと</p>	<p>(3) 「費目」ごとの支出予定額が50%以上かつ20万円以上変わるなど補助対象事業の大幅な変更又は事業を中止する場合は、事前に補助金(変更・中止)承認申請書(第3号様式)を理事長に提出し、その承認を受けなければならないこと</p> <p>(4) 補助対象事業が予定の期間内に完了しない場合又は事業の遂行が困難となった場合は、速やかに理事長に報告し、その指示を受けなければならないこと。</p> <p>(5) 補助対象事業に係る収入及び支出の状況を明らかにした帳簿書類を作成し、補助対象事業の完了の翌年度から5年間保存しておかねばならないこと。</p> <p>(6) 講演会や事業発表等の場においては、機構の補助事業を活用した旨の表示(発表)を積極的に行うこと</p>
<p>(概算払)</p> <p>第7条 理事長は、補助事業者から求めがあり、かつ、補助の目的を達成するために必要があると認められるときは、概算払をすることができる。</p> <p>2 補助金の概算払を受けようとするときは、概算払請求書(第4号様式)を理事長に提出しなければならない。</p> <p>3 概算払の申出を行わなかった場合、又は、概算払を受けたが、その額が決定通知書(第2号様式)に記載された補助決定額を下回っている場合、補助事業者は、第8条に定める実績報告書の提出と併せて、補助金請求書(第5号様式)を提出しなければならない。なお、第8条で定める期間内に補助金請求書(第5号様式)の提出を行わない場合は、理事長は第1項に基づき既に行った概算払を除いて補助金の交付を行わない。</p>	<p>(概算払)</p> <p>第7条 理事長は、補助事業者から求めがあり、かつ、補助の目的を達成するために必要があると認められるときは、概算払をすることができる。</p> <p>2 補助金の概算払を受けようとするときは、概算払請求書(第4号様式)を理事長に提出しなければならない。</p> <p>3 概算払の申出を行わなかった場合、又は、概算払を受けたが、その額が決定通知書(第2号様式)に記載された補助決定額を下回っている場合、補助事業者は、第8条に定める実績報告書の提出と併せて、補助金請求書(第5号様式)を提出しなければならない。なお、第8条で定める期間内に補助金請求書(第5号様式)の提出を行わない場合は、理事長は第1項に基づき既に行った概算払を除いて補助金の交付を行わない。</p>

平成27年度	平成26年度
<p>(実績報告書)</p> <p>第8条 補助事業者は、補助対象事業完了の日から30日以内又は当該年度の3月31日までのいずれか早い日までに、補助対象事業実績報告書(第6号様式)に関係書類を添えて、理事長に提出しなければならない。</p> <p>2 理事長は、前項の補助対象事業実績報告書及び関係書類を確認し、補助事業者に対する最終補助確定額を決定する。</p> <p>3 最終補助確定額が前条第1項に基づき行った概算払による補助額を下回っている場合、前条第3項に定める補助金請求書の提出の有無にかかわらず、理事長は概算払の額と最終補助確定額との差額を補助事業者に対して返還を求めなければならない。</p> <p>4 最終補助確定額が前条第3項に定める補助金請求書に記載された今回請求額、又は、補助金請求書に記載された既交付額と今回請求額の合計額を下回っている場合、理事長は最終補助確定額又は最終補助確定額から補助金請求書に記載された既交付額を控除した額を補助事業者に交付する。</p> <p>(補助金の交付決定の取消及び返還)</p> <p>第9条 補助の条件に従わなかったとき、補助金の不正使用又は不正受給があったとき、また補助対象事業において不正行為があったと認められた場合は、理事長は、補助金の交付決定を取り消し、既に交付した補助金の全部又は一部の返還を命じるものとする。</p> <p>2 補助金の交付決定の取消及び返還については、助成評価委員会の意見を踏まえて理事長が決定し、実施する。</p>	<p>(実績報告書)</p> <p>第8条 補助事業者は、補助対象事業完了の日から30日以内又は当該年度の3月31日までのいずれか早い日までに、補助対象事業実績報告書(第6号様式)に関係書類を添えて、理事長に提出しなければならない。</p> <p>2 理事長は、前項の補助対象事業実績報告書及び関係書類を確認し、補助事業者に対する最終補助確定額を決定する。</p> <p>3 最終補助確定額が前条第1項に基づき行った概算払による補助額を下回っている場合、前条第3項に定める補助金請求書の提出の有無にかかわらず、理事長は概算払の額と最終補助確定額との差額を補助事業者に対して返還を求めなければならない。</p> <p>4 最終補助確定額が前条第3項に定める補助金請求書に記載された今回請求額、又は、補助金請求書に記載された既交付額と今回請求額の合計額を下回っている場合、理事長は最終補助確定額又は最終補助確定額から補助金請求書に記載された既交付額を控除した額を補助事業者に交付する。</p> <p>(補助金の交付決定の取消及び返還)</p> <p>第9条 補助の条件に従わなかったとき、補助金の不正使用又は不正受給があったとき、また補助対象事業において不正行為があったと認められた場合は、理事長は、補助金の交付決定を取り消し、既に交付した補助金の全部又は一部の返還を命じるものとする。</p> <p>2 補助金の交付決定の取消及び返還については、助成評価委員会の意見を踏まえて理事長が決定し、実施する。</p>

平成27年度

(その他)

第10条 この要綱に定めるもののほか、補助金の交付に関して必要な事項は、理事長が別に定める。

附則

この要綱は、平成27年1月19日から施行する。

なお、この補助事業は平成27年度高知県当初予算の成立をもって、正式に実施が決定されるものとする。

(別表)

補助対象経費	補助率	補助限度額
(1) 研修会等の開催（年間4回程度（※））に要する経費 （謝礼金、旅費、消耗品費、通信運搬費、手数料、使用料、負担金、会議費） （※）追加公募を行った場合には、事業実施月数に応じた回数とする (2) その他理事長が特に必要と認める経費	定額	1,000千円 ／1補助事業者

平成26年度

(その他)

第10条 この要綱に定めるもののほか、補助金の交付に関して必要な事項は、理事長が別に定める。

附則

この要綱は、平成26年1月20日から施行する。

なお、この補助事業は平成26年度高知県当初予算の成立をもって、正式に実施が決定されるものとする。

(別表)

補助対象経費	補助率	補助限度額
(1) 研修会等の開催（年間4回程度（※））に要する経費 （謝礼金、旅費、消耗品費、通信運搬費、手数料、使用料、負担金、会議費） （※）追加公募を行った場合には、事業実施月数に応じた回数とする (2) その他理事長が特に必要と認める経費	定額	1,000千円 ／1補助事業者